

韓国での男性看護師の現状

Trends of male nurses in Korea

鄭 昇姫・今井 信行

Seunghye JUNG and Nobuyuki IMAI

最近、韓国では男女平等の認識が広がって、多くの人々が家父長制的価値観から抜け出している。多くの家庭が共働きをして、家事や育児を分担するようになってきた。また、職業における性別差や優劣が少なくなり、通常は男性に人気がある工学科に女性が増え、また、女性に人気がある看護学科に男性が増えている。看護の専門性に関して社会的認識が高まり、男性看護師は増加する傾向にある。男性看護師の増加は、女性中心であった看護関連の臨床現場に多くの変化をもたらしており、男性が女性を補完したうえで他職種と円満な関係を維持することなどにより肯定的な意味で看護専門職の発展に寄与するものと期待されている。韓国で急速に増加している男性看護師の現状を報告する。

1. はじめに

1962年に韓国で初めて男性看護師が誕生して以来、2013年から急増して2016年には1万人を超えた。2017年12月には男性看護師が12,152人になり、2017年度第57回看護師国家試験の合格者19,437人のうち男性の合格者は2,134人で、合格者全体の10.96%を占めた¹⁾。女性の職種として認識されてきた看護師が専門職として認められ、性の固定観念から囚われない社会的雰囲気の変化が起きてきたことや就職先が減少している経済的不況下においても安定的な給料が得られることなどから、看護職を選択する男性が増加してきた²⁾。

また、家族や親戚に対する看護師の評価は良い方向に変化してきているので、男性看護師の数が急速に増加することで、医療現場における男性看護師の役割および必要性が広がりつつあり、さらなる新しい変化および飛躍の時期になってきた³⁾。

2. 韓国での看護職に対するイメージ

看護職に対するイメージは、看護師以外の一般人の考え方および看護師自身の看護職に対する認識をあわせて

形づくられており、看護の政策決定、学生の進路決定、大衆の看護サービスに対する認識、看護師自身の職務満足度等に非常に多くの影響を与えている。韓国における看護師の伝統的なイメージは、医療に関連する技術を有する徳を備えた女性として考えられてきた³⁾。また、看護職に対するイメージは時代とともに変化してきているが、医師の補助者として清潔であり、看護に関する専門的な仕事に従事する役割であるとされている³⁾。

大韓看護協会は、2006年にランダムに選んだ一般的な男女1,031人を対象にして看護職のイメージに関して電話での調査を実施した。その結果、多くの人の考え方として看護師といのは社会的に認められている職業であり、医療に関する専門的知識があるうえに特別な技術を有していることで、患者が抱えている多種多様な問題点を解決できる可能性があるため、自身の家族にも少なくとも1人は看護師がいて欲しいという非常に良いイメージになっている³⁾。また、看護師は専門性が高いだけでなく責任も重大であることから、職業としては決して楽しくはないという認識があるうえ、ストレスも多くて非常に厳しい仕事だと考えていることがわかった³⁾。看護職のイメージは時の流れと文化的背景に基づいて多様に形成されており、女性だけのユニークな職業という認識からは変わってきている。それにより、男性が看護職の現場により入りやすくなって、男性看護師が急速に増加してきたものと考えられる。

連絡先：今井信行 nimai@cis.ac.jp

千葉科学大学大学院薬学研究科

Graduate School of Pharmacy, Chiba Institute of Science
Graduate School

(2019年9月18日受付, 2019年12月9日受理)

3. 韓国高校生の看護学科への関心

最近、韓国の高校生は職業を選択するときに、女子学生に向いているイメージのある看護学科ではあるが、医療に携わって様々な病気に苦しんでいる多くの患者を支えるための専門的な知識や技術を学べる環境を提供しているところを考慮して、看護学科の受験を選択する男子学生が増えてきており、看護師数の男女比に大きな変化が起きている⁴⁾。韓国では男性看護師が年々増加し、2004年の830人から2014年には7,443人になり全体の看護師の2.4%に達して10年間で約9倍に増加した⁴⁾。このような傾向には、看護師の求人率が安定して高い状態での推移しているうえ、看護師には専門的な知識や技術が必要とされるという認識が一般的に社会の広がりつつあり、男性が少数を占める分野に挑戦することで就職や昇進に有利になるという期待感として反映されているという報告がある⁴⁾。

韓国の高校生は、より良い職場に就職するために大学への進学を希望する傾向があり、2011年の高等教育機関への進学率は72.5%になり1995年の51.4%よりも大幅に増加した⁵⁾。近年の大学入試における傾向は、看護・保健系学科への関心が高くなってきている。特に、看護学科は専門性が高いという認識から就職率が他の学科に比べて高いとされ、志願率が上昇して2001年に4万人余りだった在籍学生数が2011年6万人に増加した⁶⁾。看護学科の男子学生の割合は、2003年に3.2%だったのが2011年には13.0%になって継続的に増加する傾向にある⁷⁾。

4. 韓国の臨床での男性看護師

男性看護師は、特に専門化された看護技術および体力が要求される精神科、麻酔科、救急室、集中治療室において非常に重要な役割を果たしているが、看護師を女性の職業として認識している患者や保護者からは看護を拒否されるという葛藤を経験している³⁾。また、低い社会的地位、人材不足に起因する超過勤務、劣悪な労働条件、期待に満たない給料、少なからず残っている女性の職業という固定観念等で看護職を離職するケースは少なくない⁸⁾。男性看護師は、女性看護師よりも社会的偏見や先入観を経験し、女性看護師との関係形成やコミュニケーションの難しさを感じて、職務に対する満足度が低下して離職率が高くなっていると言われている⁹⁾。すなわち、男性看護師は、女性が主流である看護組織で疎外される等の理由で、人間関係における困難さを経験しており職務満足度は男性が女子よりも低くなっている⁹⁾。また、そのことで離職意思が高くなっているのは行政と管理サポートの欠如に関連付けられ、男性看護師の適応に対する支援する戦略が必要になっている⁹⁾。

上級総合病院（日本の特定機能病院に相当）の男性看護師は、一般病棟において様々な理由で適応することに

困難さを感じる多くの経験をしているとの報告がある¹⁰⁾。すなわち、第一に同時かつ多発的に発生する事象に対して適切かつ機敏に処理する能力が必要とされる病棟における看護業務においては、男子看護師の勤務地を決めるときに合理的な基準作りが必要であるとしている。第二に、医療消費者（患者およびその家族）や医療関係者に病棟で働く男性看護師に対する偏見や否定的な見方があったので、これを解消するために組織的に広報するような戦略が必要であるとしている。第三に、医療の対象者が男性看護師を拒否し、特定の看護を行うことができない状況にあったので、これを補完するための実践マニュアルと対応戦略の作成が必要であるとしている。第四に、男性看護師は多くの女性がいる病棟勤務において、その環境に馴染めない等に理由により不便さを感じることもあるようで、同僚や先輩の男性看護師の指導や配慮が必要であるとしている。最後に、男性看護師の増加に伴って特別な部門のみに男性看護師を配置するわけにはいなくなってきたので、病棟において看護に関する業務全体に関与できるように男性看護師が業務を遂行するための能力を向上するプログラムおよび支援するプログラムの開発が必要であるとしている。

5. 結論

韓国では看護職の専門性に関して社会的な認識が高まってきたために、その就職の需要が増えてきていることから男性看護師は増加する傾向にある。また、男性看護師の増加は、女性が働き手として中心的な存在であった看護関連の臨床現場に多くの変化をもたらしてきている。そこで、男性看護師が女性看護師の役割を補完したうえで他職種と円滑な関係を維持することなどにより、肯定的な意味で看護専門職の発展に寄与するものと期待されている。

参考文献

-
- 1) 大韓看護協会 . <http://www.koreanurse.or.kr/>, (参照2019-09-10)
 - 2) Understanding the gender role identity in male nursing student; MA. Kim, SH. Ko, E. Park, *Journal of Korea Academic Society of Nursing Education* **2014**. 20(2). 223-233.
 - 3) Content analysis of male hospital nurses' experiences; KH. Ahn, JM. Seo, SK. Hwang, *Journal of Korean Nursing of Adult Nursing* **2009**. 21(6). 652-665.
 - 4) 男子看護大学生の男子看護師に対するイメージ; ソンミスン, バクヨンレ, ウィヒ, *健康と社会科学*, **2015**, 38, 37-67.
 - 5) Statistical research institute, **2012**. <http://kostat.go.kr/portal/korea/index.action>, (参照2019-09-10)
 - 6) Korea educational development institute, **2011**. <https://www.kedi.re.kr/khome/main/webhome/Home.do>, (参照2019-09-10)
 - 7) 男子高校生の男子看護師に対するイメージ; ウィヒ, バクヨンレ, ソンミスン, *J Korean acad. Fundam. Nurs.* **2013**, 20(2), 118-128.
 - 8) The male nurses' experiences of adaptation in clinical setting.; HM. Son, MH. Koh, CM. Kim, JH. Moon, *Journal of Korean Academy of Nursing* **2003**. 33(1). 17-25.
 - 9) New developments in sex discrimination of male nurses; S. Rangel, K. Kleiner, B. Kleiner, *Insights to a Changing World Journal* **2011**. 1. 27-35.
 - 10) 上級総合病院の男性看護師の一般病棟の適応の経験の研究; キムジへ, バクグアンオク, キムチョンキョン, ユンハチョン, チョウンキョン, キムスンヒ, キムヨンヒ, *J Korean Acad Nurs Adm* **2016**. 22(5). 496-506.

Trends of male nurses in Korea

Seunghye JUNG and Nobuyuki IMAI

Department of Pharmacy, Chiba Institute of Science Graduate School

Recently, many people are trying to escape patriarchal values as perceptions of gender equality spread in Korea. For example, many families work together to share housework and childcare. In addition, as the boundaries of gender are gradually disappearing from the profession, women are increasing in engineering colleges which is the representative of men, and men are increasing in the department of nursing which is the representative of women. Male nurses are increasing because Koreans have gradually been recognized professionalism as nursing. Increasing male nurses influence greatly the clinical places in which females generally work. It is expected that male nurses help the working parts for females and the development of professionalism as nursing by keeping good relationship with the other occupations. In this article, let's take a look at the phenomenon of male nurses that is rapidly increasing in recent Korea.